

平成21年度共生システム理工学類後援会会計決算報告

収入内訳 (単位円)				
科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	6,873,664	6,873,664	0	学生活動助成(36万円×6年)、福利厚生費(18万円×6年)、通信費(3万4千円×6年)等を含む
会費	3,600,000	3,590,000	10,000	H21年度20,000*新入生177+10,000*編入生5
雑収入	0	2,209	△2,209	利息
収入合計	10,473,664	10,465,873	7,791	

支出内訳 (単位円)				
科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
事務総会費	5,000	4,095	905	資料印刷費等
役員会費	130,000	124,433	5,567	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与:50,000/月
事務費	15,000	57,194	△42,194	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	750,000	785,722	△35,722	
学生活動助成費	500,000	822,759	△322,759	学生の課外活動支援費、表彰制度、学生交流会費:20万
就職指導対策費	50,000	39,851	10,149	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	273,000	26,960	会報年2回発行 発送費を含む
福利厚生費	900,000	373,000	527,000	アドバイザーグループ・研究室配属学生助成:1,000円*180人*4年
学類運営助成費	200,000	319,490	△119,490	理工系学部長会費他学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	900,000	766,432	133,568	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000円*100、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成:30万
小計	2,850,000	2,594,572	255,428	
予備費	0	39,600	△39,600	学籍異動に伴う返金、祝い金
合計	3,600,000	3,419,894		

収入合計-支出合計=7,045,979円は平成22年度へ繰越

平成22年度共生システム理工学類後援会会計予算

収入内訳 (単位円)				
科目	本年度予算額	H21年度予算額	比較増減額	備考
繰越金	7,045,979	6,873,664	172,315	
会費	3,600,000	3,600,000	0	5,000*180*4
雑収入	0	0	0	預金利息等
収入合計	10,645,979	10,473,664	172,315	

支出内訳 (単位円)				
科目	本年度予算額	H21年度予算額	比較増減額	備考
事務総会費	5,000	5,000	0	資料印刷費等
役員会費	130,000	130,000	0	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与:50,000/月
事務費	45,000	15,000	30,000	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	750,000	30,000	
学生活動助成費	600,000	500,000	100,000	学生の課外活動支援費、表彰制度:5,000円*45人
就職指導対策費	300,000	50,000	250,000	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	300,000	0	会報年2回発行 発送費を含む
福利厚生費	720,000	900,000	△180,000	アドバイザーグループ・研究室配属学生助成:1,000円*180人*4年
学類運営助成費	100,000	200,000	△100,000	理工系学部長会費他学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	800,000	900,000	△100,000	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000円*150、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成
小計	2,820,000	2,850,000	△30,000	
支出合計	3,600,000	3,600,000	0	
予備費(繰越金)	7,045,979			学籍異動に伴う返金 学生活動助成:36万円*(1年+2年+3年) 福利厚生費(18万円*6年) 通信費(3万4千円*6年)等を含む
合計	10,645,979			

平成22年度 福島大学理工学群共生システム理工学類 後援会役員名簿

【役員】	会長	富田 道夫	理事	菅野 浩子
	副会長	斉藤 修		丹治 峯人
	副会長	小野寺 京子		加藤 孝裕
	監査	菅野 毅		押切 竜一郎
	理事	高橋 薫		神野 幹彦
	理事	小笠原 仁海		

第46回福大祭 本祭(一般公開)

場所: 福島大学
日時: 平成22年10月30日(土)~31日(日)
ステージ発表・模擬店・子ども向け企画・
学外展示・お笑いステージなどを企画しています。

ご意見・ご要望は下記共生システム理工学類後援会まで
事務局 〒960-1296 福島市金谷川1
福島大学理工学群共生システム理工学類内
TEL&FAX 024-548-8176
学類のHPで様々な教育・研究活動をご覧ください。
<http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>

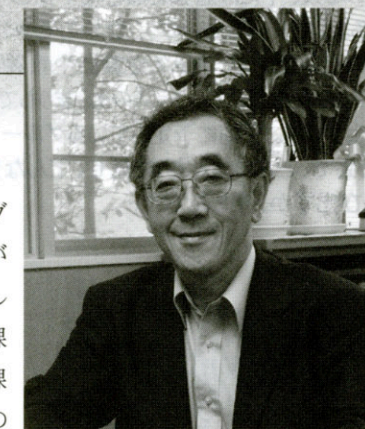
福大祭へ
お越しください!

国立大学法人 福島大学 共生システム理工学類

後援会だより

VOL.11
2010.9

ごあいさつ

福島大学共生システム理工学類長
石原 正

本年4月より、共生システム理工学類創設時より学類長を務められた入野野前学類長(現学長)の後任を務めさせて頂いております。研究分野は制御工学で、特に制御理論を専門としております。(制御理論は対象物を自在に操ることを目指し、「操り易さ」や「どのように操るのか」を研究する学問領域で。その成果は制御理論の成果は航空機。自動車から情報機器まで広く活用されているだけではなく。経済学へも影響を与えています。)

前学類長のご尽力で、念願の大学院博士課程(後期3年の課程)が本年度より開設され、定員6名に対して11名の学生を受け入れております。博士課程では、研究プロジェクトへの参画を通して実践力と研究能力を養う「研究プロジェクト型」の教育システムを全国で初めて導入しております。この教育を促進する組織として「研究プロジェクト型実践教育推進センター」を設置することが文部科学省により認められ、センター所属の教員として4名の特任教授、3名の特任助教の方々が公募により採用されております。

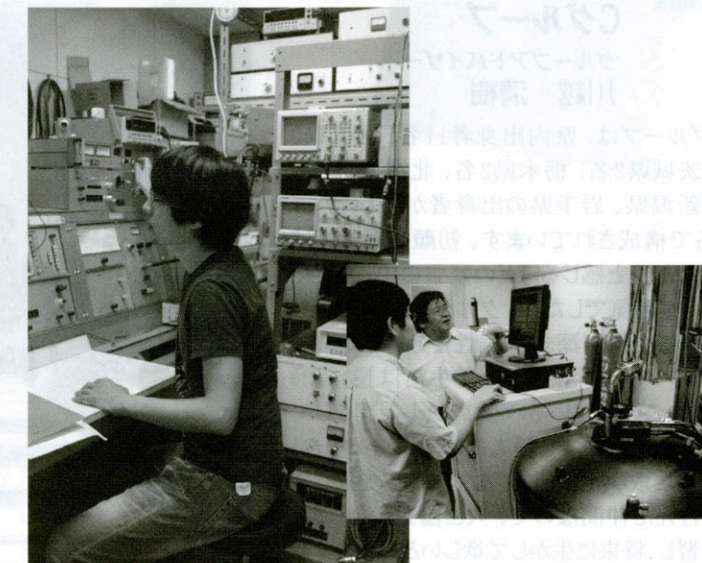
博士課程の設置により、本理工学類・研究科の教育組織は一応の完成をみたこととなり、既存の国立大学法人の理工系

と同等の教育プログラムを提供することが可能となりました。しかしながら、修士課程(博士前期2年の課程)では、十分な数の学生を確保できていないという誠に残念な状況にあります。本研究科の修士課程への学類からの進学率は20パーセント程度です。旧帝国大学の理工系では、学科にもよりますが、4年生のほぼ80パーセント以上が修士課程に進学し、地方国立大の工学部でも進学率が60パーセント以上の所もございます。後援会の皆さまには、多くの製造業の技術系新入社員の大半を修士課程修了者が占めることをご認識頂き、ご子息の卒業後の選択の一つとして、大学院進学を勧めて頂ければ幸いです。

今後、本学類の分野横断的な特色を生かしつつ、新しく設置されたセンターを活用し、大学院のみならず学類の教育をも一層充実させたいと考えております。後援会の皆さまから益々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



総合研究棟



試料測定中

一年生紹介

Aグループ

グループアドバイザー
小山 純正

Aグループには、北海道～静岡から21人(男性17人、女性4人)が集まっています。活発に発言する人、物静かな人などさまざまです。サークル活動に夢中人な人、自治会活動に取り組んでいる人、中には勉強を熱心に行っている人もいます。不揃いのリングやモモやサクランボみたいですが、クラス交流会や教養演習での討論会を通して、クラスのまとまりもできてきたようです。後期に予定しているグループ別発表会で、どんなまとまりを見せ、どんな発言が飛び出すか、楽しみです。



Bグループ

グループアドバイザー
石渡 通徳

Bグループは、県内出身者が7名、栃木5名、青森3名、宮城2名、残りは岩手、秋田、茨城、中国の出身者で女性4名、男性17名の計21名からなります。演習では主に哲学・数学に関する文献について「文献調査、発表資料作成、発表、批評」のサイクルを繰り返しています。いままで意識的にやったことのない内容のため、苦勞しているようです。

社会の状況はますます厳しくなっていますが、卒業後世の中で仕事するにはどのようなスキルが必要になるか、今のうちから考えられるような材料を提供し、学生さんたちが厳しく自分を鍛えるお手伝いをできればと考えています。



Cグループ

グループアドバイザー
川越 清樹

Cグループは、県内出身者11名、宮城県2名、茨城県2名、栃木県2名、北海道、山形県、新潟県、岩手県の出身者が各1名の計21名で構成されています。初顔合わせでは「大丈夫?」と感じるほどの緊張の中、たどたどしい雰囲気でしたが、グループ活動を通じて徐々に交流が深まり、個性を発揮し始めているメンバーもいます。大学生活は長いようで短く、この間にいろいろなチャレンジをしてゆくといいと思います。個人だけで「しゃかりき」に物事に取り組むだけでなく、クラスを通じて知り合えた仲間なので、人と協力し合うことも学習し、将来に生かして欲しいと思います。

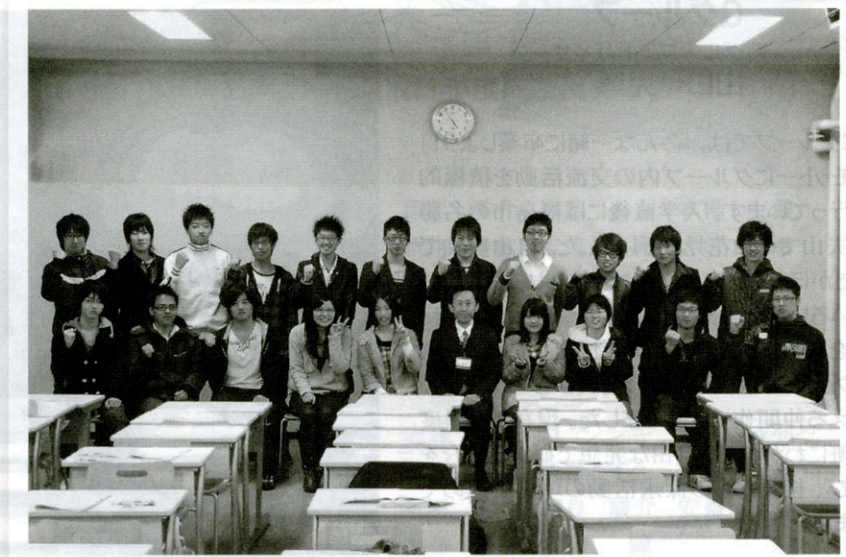


Dグループ

グループアドバイザー
増田 正

Dグループでは懇親のためにまずボーリング大会を挙行了しました。ボーリング大会では、学生の自主的な取り組みと後援会からの支援のおかげで、楽しい時間を過ごすことができたと思います。

その後、共生システム理工学類の紹介と勉強のモチベーションを高めることを兼ねて、研究室訪問を行いました。3名一組で、組み合わせを変えながら、1名当たり3研究室訪問を目標にしましたが、前期の講義期間では、まだ途中までしか達成できず、後期にも継続する予定です。



Eグループ

グループアドバイザー
大山 大

今年度のEグループは、地元福島県を最大勢力とし、北は北海道から南は九州・福岡まで、さらには中国からの留学生を含めた21名で構成されています。年々、男女比のバランスが悪くなるという傾向が示すとおり、Eグループも男子が8割を占めるといういわゆる「男クラ」に近い状態です。

1年生ですからもちろんお酒は飲みませんので、グループでの活動はもっぱら体を動かすこととなり、ボーリング大会で親交を深めたりしています。



Fグループ

グループアドバイザー
難波 謙二

F組は女性3名、男性17名。福島県内9名、隣接5県から7名ですが、北は五所川原、南は奄美、西は中国山東省済南市から集まりました。

演習では、それぞれの関心事について書籍を読み、さらに情報を収集して他人に説明するという取り組みが始まっています。

自分の興味関心や特技を、発見・再発見すること、専攻や研究室の進路選択に必要な情報収集とを併せて、充実した大学生生活の基を築きたいと考えています。



Gグループグループアドバイザー
山口 克彦

Gグループでは、「みんな一緒に卒業しよう!」をモットーにグループ内の交流活動を積極的に行っています。入学直後には福島市の名勝信夫山でのお花見を行いました。自由参加でしたがほとんどのメンバーが参加して、合流したいろいろな研究室の4年生や院生などと交流を深めました。また6月には自主的にボーリング大会を企画してほぼ全員が参加し、顔の見える仲間作りが進みました。現在3人程度の班にわかれて、自由な発想で研究テーマを選び、後期からの探求活動の準備を進めています。

**Hグループ**グループアドバイザー
董 彦文

Hグループは福島県出身者が10名、他の東北地域が5名、北関東が4名、岐阜県が1名。はじめての大学生活であるため、楽しさと期待を十分にもちながら不安と不満も抱えています。第1セメスターの学習が無事に終わってほっとしております。大学に入ることは最終目的ではなく、将来のライフプランをよく考えたうえ、大学の学習に取り組んでほしいです。

後期の演習テーマについて、全員一致で「ギョーザの作り方と実験計画法」を選びました。もっともっと美味しいギョーザを作るために頑張っていきますので、最終発表会ではぜひ美味しいギョーザを賞味していただきたいと思います。

**Iグループ**グループアドバイザー
横尾 善之

Iクラスは男性17名、女性3名の合計20名で構成されています。出身地の構成をみると、福島6名、栃木4名、山形2名に加えて、青森、秋田、茨城、岩手、群馬、新潟、宮城、中国福建省からそれぞれ1名ずつとなっています。

教養演習Iという講義を通じて、Iクラスでは「学問のすゝめ」を小グループ毎に分担して読んで発表会も行いました。先日は、後援会のご支援をいただき、懇親のためのボーリング大会を実施し、クラス内の雰囲気もかなり打ち解けてきました。



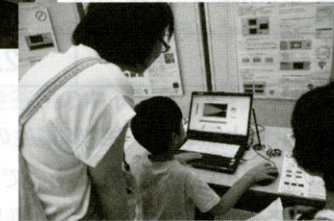
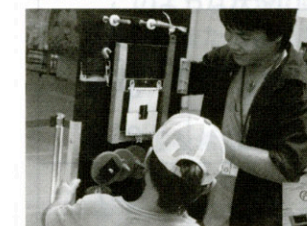
6月2日 学生交流会



学業優秀者表彰



8月7日 サイエンス屋台村



平成21年度成績優秀者表彰

1年

赤城 優香 鳥居 洋介 峯田 真吾 本柳 健
四ツ目佳穂 酒井 貴紘 吉成 正顕 大塚 俊幸
赤沼 勇人 遠藤 尚美 杉山 拓也
龍崎 尚真 佐藤由佳莉 箭内 愛咲 塩谷 昌之

2年

小野結夏子 志鎌 広也 ゴ シンキ 岩田 成弘
内村 和彦 植木 智也 斉藤こずえ 千葉 史人
高橋 謙智 池田 滉二 相良 駿介 安齋 洋行
遠藤 美佳 佐藤 優友 安濃 瞳

3年

古谷 卓也 阿部 勝人 間澤慎太郎 吉江 崇裕
八代 尚子 半田久美子 小野木徹也 譲矢かずみ
滝沢 桃花 及川 貴久 藤森 優太 高槻 百合
西牧 和樹 浦井いぶき 渡邊 恵

学生生活支援便り

共生システム理工学類学生生活委員会

紙面をお借りして、後援会の皆様に理工学類の学生の動向、学生生活上の注意などをお知らせしています。

【学類学生の動向】

恒例となっている学生交流会が6月2日に学生会館2階の大集会場で行われました。交流会は、学生実行委員会がイベントを企画し、食べ物や飲み物が用意され、教員と学生また学生同士等、学年問わず交流できる場となっています。また、交流会の中では、昨年度の学業成績優秀者の表彰が行われ、学類長より賞状と図書カードが贈呈されました。交流会、学生表彰は後援会の多大なご支援をいただき実施しています。この場をお借りしてお礼申し上げます。

自動車やバイクで通学している学生も多いと思います

が、学内で事故に会うケースも報告されています。学生には学内交通ルールを守るよう注意を呼びかけています。

【大学への相談】

学生生活に関して様々な問題や心配事は「学生課」で相談を受け付けています。また、「学生相談室」では、専門のカウンセラーが対応していますので、対人関係やメンタルな問題等気軽に相談下さい。相談者のプライバシーは守られますので安心して下さい。父兄の方の相談も可能です。

■学生課 電話 024-548-8061

■学生相談室

電話 024-548-5156 024-548-8058

FAX 024-548-5157

電子メール g039@ipc.fukushima-u.ac.jp

平成21年度 卒業生の進路状況について

共生システム理工学類就職支援委員会

就職支援委員会では、各研究室の指導教員との連携により、学生の就職活動状況、進路状況を把握し、きめ細かな就職支援に努めています。就職支援室には、専門のキャリアカウンセラーが常駐し、昨年度共生システム理工学類の学生からは、述べ200回を超す相談を受けています。また、進路先に応じた様々な就職ガイダンスを年間30回ほど開催し、160社あまりの企業の参加による合同企業説明会を開催します。

このような就職支援体制の下、共生システム理工学類では、今年の3月に第2期(21年度)の卒業生を送り出しました。就職進路決定率は前年度同様96%を超え、全学類の中で最も高い値となりました。ここでは、前年度の実績と比較しながら、21年度の進路状況について、報告させていただきます。

最終進路先を表1に示します。前年度(20年度)に比べ、企業への就職率が低下しています。情報通信業(25%)、製造業(20%)を始めとし、卸・小売業(12.5%)、金融業(12.5%)などが続きます。大企業から中堅、新興企業などさまざまな業種に就職していますが、前年度同様、地元企業への就職が少なかったのが残念です。福島大学では、市や県、地元企業との共催により、企業訪問会などを開催して、積極的に地元企業のアピールに努めています。

表1 卒業生の進路・就職状況 (単位%)

	20年度	21年度
大学院	28.6	28.2
専門学校	0.6	4.2
民間企業	50.0	39.4
公務員		
国家公務員	1.3	6.3
地方公務員	8.4	7.0
公務員希望者	4.5	7.7
教員	2.6	2.1
期限付き教員	1.9	0.0
自営業・その他	0.6	2.1
未定	1.3	2.8

企業への就職率の低下に伴い、公務員の就職率は増加の傾向を示しています。また、今年度公務員を目指したもののうまくいかず、来年もう一度チャレンジする学生(公務員希望者)が増え、両者を合わせると、20%以上の学生が公務員を目指していたことになります。この傾向は、7月時点での進路先希望調査(表2)によると、今年度はさらに強まっているようです。

表2はまた、現時点で今年度の大学院進学希望者が少ないことを示しています。この値は、民間企業、公務員などの決定の結果によって、今後増加するとも考えられます。

表2 希望進路の動向(7月時点) (単位%)

	20年度	21年度	22年度
大学院	24.1	24.7	13.8
民間企業	50	45.3	54.4
公務員	16.3	21.8	26.3
教員	7.8	5.9	3.1
未定	1.8	2.4	2.5

表3に示すように、21年度卒業生の(21年)7月時点での企業への内定率は49%と厳しいものでしたが、公務員に再チャレンジするものを除いた最終的な進路決定率は97%に達しました。今年度も民間企業への就職は、なかなか厳しい面もありますが、7月時点での内定率は、昨年度を上回っていることから、今後の健闘が期待できます。

表3 企業内定率(7月時点)と最終的な進路決定率 (単位%)

	20年度	21年度	22年度
企業内定率(7月)	67.0	49.0	56.0
最終進路決定率	98.6	96.9	

今年度は、理工学類出身の大学院生(修士課程)が卒業する最初の年に当たりますが、7月時点で、37人中30人が民間企業への就職を希望し、そのうち15人(50%)が内定を得ています。また、5人(13.5%)は、今年度開設された大学院博士課程への進学を希望しています。

教員、公務員を目指す学生の多くは、早くから教員講座、公務員講座を受講し、民間企業を目指す学生は、積極的に企業説明会や会社訪問を行っています。就職支援委員会は、彼らの努力に答えるべく、できる限りのサポートを行っていきたくと考えています。

「親のための就職セミナー」の開催について

(主催) 福島大学就職支援委員会
(後援) 福島大学人間発達文化学類後援会、福島大学行政政策学類後援会
福島大学経済経営学類後援会、福島大学共生システム理工学類後援会

テーマ：「大学生の就職事情と大学教育」 ＝学生の就活模様と本学のキャリア教育について＝

少子高齢化の時代に入り労働力人口は減少傾向にあります。大学生の就職事情は厳しくなってきたといわれています。文部科学省は大学における職業教育の強化も打ち出しました。しかし、その実態はさまざまです。各大学の就職支援が強化されればされるほど、受験勉強の延長のように大学の就職予備校化の問題も指摘されています。さらに、「就活」の早期化や就職支援産業の隆盛は、大学教育そのものを崩壊させているのではないかといった懸念も聞かれます。

このような状況の中で、いまどきの学生の就活模様について本学学生の様子や他大学の動きなども紹介いたします。また本学の就職支援やキャリア教育の取り組みについて紹介させていただきます。これを機会にこれからの福島大学の取り組みについて皆様と一緒に考えることができれば幸いです。

参加を希望される方は、参加申込書にご記入の上、FAX・郵送・メール等で、10月15日(金)まで就職支援室までお送りくださいますようお願いいたします。お送り頂いた参加申込書により、そのままセミナーにご参加いただけます。そのため、こちらからはお申込みの結果についてご連絡はいたしませんので悪しからずご了承ください。

なお、当日は金谷川のキャンパスで「大学祭」も実施されております。併せて是非ご覧いただけますようご案内いたします。

記

- 開催日時 平成22年10月30日(土) 13時～14時30分 [参加無料]
- 開催場所 福島大学共通講義棟 L-1教室 (福島市金谷川1番地)
- 参加対象 福島大学の在学生の保護者の皆様
- 開催内容 ①挨拶 清水 修二 副学長
②講演 五十嵐 敦 キャリア開発教育研究部門部門長 教授
③質疑応答

[参考]

≪五十嵐敦氏のプロフィール≫

氏名：五十嵐 敦 (1957年福島県喜多方市生まれ)

所属：日本キャリア教育学会(理事)、産業カウンセリング学会(理事)、産業ストレス学会等に所属。主に企業の人材育成や職場適応問題に取り組んでいる。労働者健康福祉機構の産業保健推進センター・メンタルヘルス対策支援センターで支援活動を行っている。平成22年度文部科学省就職問題懇談会委員。

【申込先】福島大学学生課就職支援室長 南 俊二(Minami Syunji)

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地

TEL 024-548-8108 FAX 024-548-8355

E-MAIL: shushoku@as1.adb.fukushima-u.ac.jp

※メールアドレスの「as」の次は、数字の「1」です。

